

IV-13 都市政策におけるプロスポーツの役割

—アメリカと日本の比較分析—

徳島大学 学生員 ○宮田 大揮
武庫川女子大学 正会員 三宅 正弘

1. はじめに

スポーツ振興は都市の活性化と結び付けられることが少なくない。近年、日本においては、プロスポーツと地域との一体化を目指すようになってきている。そこで本研究ではプロスポーツと都市との関係性を考察するために、チーム名称と都市名称との結びつきと、またスタジアムの立地について、日本とアメリカの比較分析を行った。

2. チーム名称の分析

プロスポーツチーム(以下プロチーム)のチーム名称には都市名称や企業名称が付けられている。都市名称の付いているプロチームは都市とつながりがあると考えられる。そこで日本のプロ野球を例にチーム名称と都市の関係性を考察する。

チーム名称を表1のように3タイプに分類し、プロ野球のチーム名称の変遷を見てみると図1のように分けることができる。そこで特徴ある5期を分類し、本研究では1934年から1936年までの東京ジャイアンツ、大阪タイガース、名古屋軍などの特徴をもつ①「3大都市対抗期」。1946年から1965年までの阪急ブレーブス、大洋ホエールズなどを特徴とする②「企業型全盛期」。1966年の東京オリオンズを第1期、1978年の横浜大洋ホエールズを第2期とした③「地域密着始動期」。1978年から1992年の横浜大洋ホエールズ、福岡ダイエーホークス、千葉ロッテマリーンズを特徴とした④「戦略的地域密着期」。2000年以降の大阪近鉄バファローズ、北海道日本ハムファイターズ、東北楽天ゴールデンイーグルスを特徴とした⑤「地域密着便乗期」と分類した。

そこで各期の特徴を見てみると、「地域密着始動期」以降で近年のプロチームの地域密着化の動きにはスタジアムの新設が関わっていることが明らかになった。

表1 チーム名称のタイプ

タイプ名	特徴
都市型	都市名称+チーム愛称
都市+企業型	都市名称+企業名称+チーム愛称
企業型	企業名称+チーム愛称

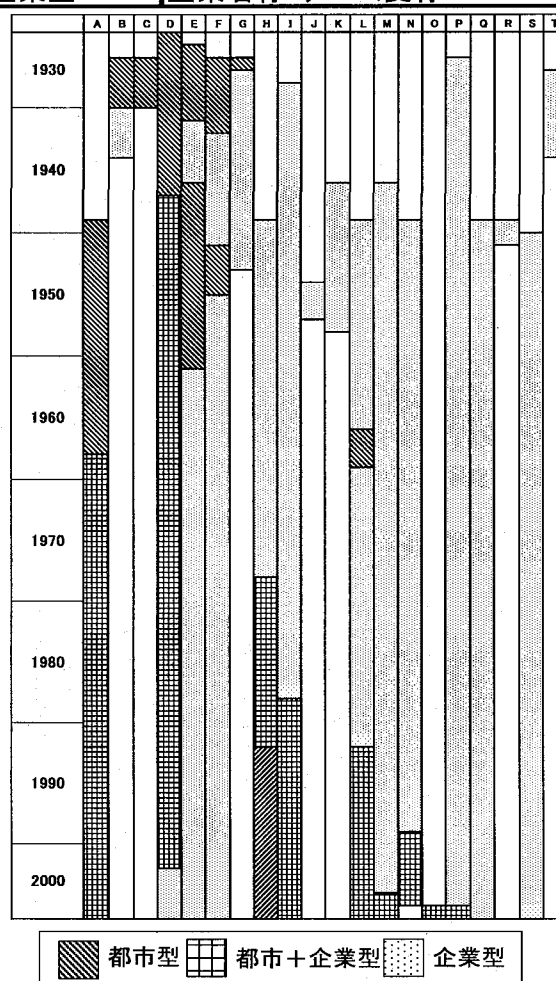


図1 チーム名称変遷年表(筆者作成)

3. スタジアム立地の分析

アメリカでは市街地再開発等でプロチームの本拠地となるスタジアムの計画が含まれることが少なくない。そのためスタジアム計画が戦略として役割をもっており市民の生活のなかで身近な存在になっていると思われる。一方、日本では建設されるスタジアムがスポーツ施設としての役割のみで存在しているため郊外に存在することもあり市民にとって身近なものになっていないと考えられる。そこで日本

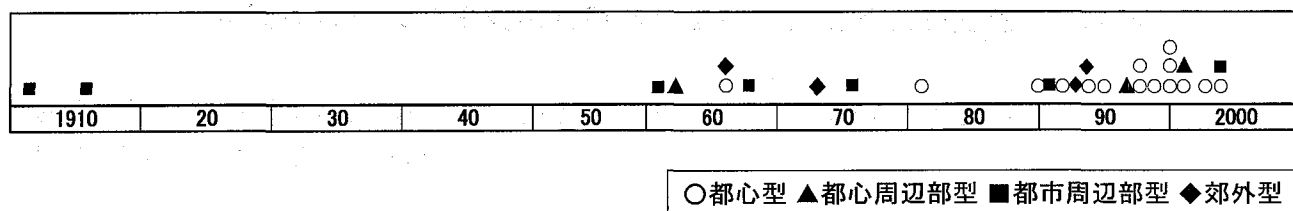


図2 スタジアム開設年表-アメリカ-(筆者作成)

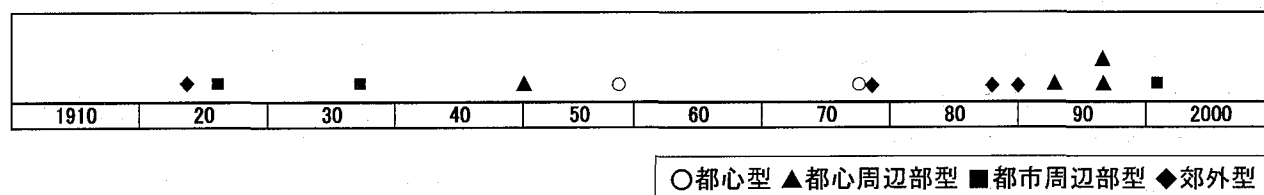


図3 スタジアム開設年表-日本-(筆者作成)

表2 立地分類の数

	都心型	都心周辺部型	都市周辺部型	郊外型
日本	2/13	4/13	3/13	4/13
アメリカ	15/30	3/30	8/30	4/30

でスタジアムのみでなくそこを本拠地とするプロチームも都市のシンボルとなるにはその都市の象徴となる場所にプロチームの本拠地が存在することが重要と考え、本研究ではスタジアムの立地を①都心型立地②都心周辺部型立地④郊外型立地の4つに分類し考察を行う。現在本拠地として使用されているスタジアムの立地の数は表2のようである。これよりアメリカでは半数以上が都心部に立地していることがわかる。またスタジアムの設立年別に年表にまとめると図2、図3のようになる。図2よりアメリカでは近年になり多くスタジアムが建設されており、また立地が都心部へ移転している傾向があることがわかる。これは中心市街地活性化と連動してプロスポーツが用いられるようになり、都市政策として都市におけるスタジアムの位置付けやその役割が明確に認識されるようになったからであると考えられる。一方、図3より日本ではアメリカのような傾向は見られず、都市における一スポーツ施設という役割が強いと考えられる。これは日本においてプロスポーツが企業スポーツとして発展してきたため都市計画とスタジアム建設との連携が必ずしも一体的に行われてこなかった。そのため郊外に建設されるなど都市と離れたものとなり、現在その時に建設されたスタジアムを使用しているため市民にとって身近でなくなっていると考えられる。アメリカではスタジア

ムが都市にとって重要な社会資本とみなされているため市民にとって誇りとなる場所に建設されていると思われる。このようにスタジアムが社会資本とみなされることがプロスポーツが都市アイデンティティとなる上で重要であると考えられる。

4. プロチームと都市の結びつきの形成過程

日本においてプロチームと都市との結びつきがいかんして形成されてきたかを見てみる。チーム誘致などの背景からみて①行政先導型②市民主導型③企業(球団)戦略型の3タイプに分類されることが明らかとなった。

各タイプの考察を行うと特徴として誘致の段階で積極的に動いた主体がそれぞれ行政、市民、企業ではあるが、地域とチームが一体となり強い結びつきに至るには、どの場合においても市民の協力が不可欠であると考えられる。また、プロチームの誘致から強い結びつきの形成に至るまでには長い時間が必要であり、長期計画を持った誘致活動を行うことがプロチームが都市アイデンティティとなるためには必要であると考えられる。

5. まとめ

プロスポーツが企業スポーツから地域スポーツへ移り変わるなかで、今後はチーム運営とスタジアム建設を同時に考慮した計画が必要となると考えられる。プロスポーツを一体となって社会資本とみなし都市戦略として用いることが都市政策としてのプロスポーツの必要性であると考えられる。